

「自分から自分でせいはい」自分らしく輝く子どもを目指して

Rainbow

文責 森本 高久(教頭)

令和6年 4月 須坂市立須坂支援学校 学校だよりNo61

「ご入学・進級おめでとうございます」 令和6年度の須坂市立須坂支援学校がスタートしました。

4月5日(金)、小学部1年生5名、中学部1年生1名、小学部への転入生1名を新たに迎え、全校児童生徒34名と、職員38名で、令和6年度の須坂市立須坂支援学校がスタートしました。

入学式の小松賢吾校長先生のお話から

〈入学式保護者の会において〉

麗らかな春を迎えたこの佳き日に、お子様が入学された保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。須坂支援学校は、「障がいのある子どももない子どもも、地域の子どもは地域で育てる」という地域の皆様と須坂市の熱い思いで須坂小学校の中に開校し、十四年目となりました。須坂小学校と共にあるという環境だけでなく、本年度はその環境を生かした、より積極的な交流を行っていきたくと考えています。「共生社会」ということを考えるとき、障がいのない子どもたちが、障がいのある子どもたちをどう受け入れていくのかという構図になりがちです。しかし、障がいのない子どもたちだけで考えていても、なかなか相互理解は進みません。これからの世の中が、この子たちにとって過ごしやすくなるかどうかは、この子たちがどれだけ社会との接点を持ち、この子たちのことを知ってもらえるかにかかっていると思っています。

先日、隣の中学校の校長先生から、「須坂小からきた子どもたちは優しい。弱いものいじめをしない」というお話をいただきました。自分が関わる相手を理解し、どう接することがお互いにとってよりよい関係をつくっていくことになるかを考えられるようになっていくからだと思います。この子たちのおかげで成長出来る子が増え、そのことによって自分たちがより暮らしやすい社会になっていく、そんなループを作れたらと思っています。まずは六月に両校合同の運動会があります。保護者の皆様もぜひご参加いただき、実際に参加してみて感じた良さや課題を是非お伝えいただけたらと思います。今後の様々な活動に活かしてまいりたいと思います。

今日入学した、子どもたち一人一人にとって、「明日もまた来たい」、と思える、誰にとっても居心地の良い、温かな学校であるよう、教職員一同、力を合わせ、精一杯子どもたちの育ちを支えてまいります。どうか、お力添えをお願いいたします。

ご多用の中ご臨席賜りました須坂市長 三木正夫様 はじめ、多くのご来賓の皆様にご出席いただきましたこと、心より厚く御礼申し上げます。本日ご臨席の皆様方には、今後とも、子どもたちの健やかな成長と、本校の教育の発展のため、変わらぬご支援と、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、式辞とさせていただきます。



令和6年度職員組織の紹介

校長：小松 賢吾 教頭：森本 高久

	ク ラ ス	担 任	教員補助員
小 学 部	そら		
	ほし	名簿につきましては省略させていただきます	
	つき		
	にじ		
小学部長： _____、特別支援コーディネーター： _____			
中 学 部	みすず		
	中学部長： _____、特別支援コーディネーター： _____		
教育相談： _____		巡回相談： _____	養護教諭： _____
事務： _____		教員業務支援員： _____	管理技術員： _____

4月 支援学校の様子



○小学部ようこそその会・中学部一年生を迎える会

新しい友だちを迎えてお祝いをしたり、みんなでお祝いの準備をしたりしています。最初は緊張していた新入生たちも、徐々に笑顔が増えたり、元気に庭で活動する様子が見られたりするようになってきています。



○地域探検（中学部）

中学部は、毎日地域探検に出かけています。ふれジョブでお世話になっている中央地域公民館や須坂市立図書館、キタザワ美容室を訪れたり、幼稚園や福祉事業所で職員の方に挨拶したりしながら地域のことを学んでいます。



○桜の中の散歩

小学部にじ組は、桜が満開に近づいた臥竜公園に散歩に出かけました。天気も良く、少し汗ばむくらいの季候の中、桜を見ながら散歩をしました。公園のコイにエサをあげたり、公園で遊んだりしながら、みんなで須坂の春を楽しみました。